

ダニエル6章

主義に固く立つ・ダニエルに対する^{いんぼう}陰謀

2024、10月



主義に固く立つ・ダニエルに対する^{いんぼう}陰謀 「ししの口を閉ざされた」

6章の三つのポイント

- (1) **終末時代の教会の型**。最後の時代の神の民の生き方を教えている。
- (2) **神の救いの力が表されている**一生ける神は救う神である (26、27節)
- (3) **巧みなかたちの試練とそれに対する勝利**—迫害と試練に対する勝利。

ダリヨスとダニエル 6：1-3

1 ダリヨスは全国を治めるために、その国に百二十人の総督を立てることをよしとし、

2 また彼らの上に三人の総監を立てた。ダニエルはそのひとりであった。これは総督たちをして、この三人の前に、その職務に関する報告をさせて、王に損失の及ぶことのないようにするためであった。

3 ダニエルは彼のうちにあるすぐれた霊のゆえに、他のすべての総監および総督たちにまさっていたので、王は彼を立てて全国を治めさせようとした。



ダリヨスとダニエル 6：1-3 注解

メディアとペルシアがバビロンを征服したあと、**メディア人ダリヨスがダニエルの知恵を認め**、新しい政府の一員になるよう彼を迎えました。年老いたこの預言者は公務に抜きん出たので、新しい王は彼を、メディアとペルシアの政府全体を治める役に任命します。

しかしこれがこの6章の事件の発端となったのです。



ダリヨスとダニエル 6：1-3（注解）

3節には、「**ダニエルは彼のうちにあるすぐれた
霊のゆえに、他のすべての総監および総督たち
にまさっていたので、王は彼を立てて全国を治
めさせようとした**」ということで、

**ある人々に嫉妬からくる陰謀が企てられまし
た。**



大臣や総督の嫉妬心 6 : 4-5



4 そこで総監および総督らは、**国事についてダニエルを訴えるべき口実を得ようとしたが、訴えるべきなんの口実も、なんのとがをも見いだすことができなかった。それは彼が忠信な人であって、その身になんのあやまちも、とがも見いだされなかったからである。**

5 そこでその人々は言った、「われわれはダニエルの神の律法に関して、彼を訴える口実を得るのでなければ、ついに彼を訴えることはできない」と。

大臣や総督の嫉妬心 6：4-5 （注解）



ダニエルには、業務上何も訴えるべき口実を見出せず、大臣や総督たちは、最後は信仰問題しかないと考えました。

ダニエルは、信仰生活においては妥協しないはずだ、と考えたからです。

これはどのように現代のわたしたちに適用できるのでしょうか。後ほど考察したいと思います。

王を利用して、言いがかりを見出す。

6：6-9

6 こうして総監と総督らは、王のもとに集まってきて、王に言った、「ダリヨス王よ、どうかとこしえに生きながらえられますように。

7 国の総監、長官および総督、参議および知事らは、相はかって、王が一つのおきてを立て、一つの禁令を定められるよう求めることになりました。王よ、それはこうです。すなわち今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事をさせ、もしあなたをおいて、神または人にこれをなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れるというのです。

8 それで王よ、その禁令を定め、その文書に署名して、メデアとペルシャの変ることのない法律のごとく、これを変えることのできないようにしてください」。

9 そこでダリヨス王は、その禁令の文書に署名した。



王を利用して、言いがかりを見出す。

6：6-9 注解

6 こうして総監と総督らは、王のもとに集まってきて、王に言った、「**ダリヨス王よ、どうかとこしえに生きながらえられますように。**



ダニエル以外的高级官僚たちが陰謀を企んだわけではあります。バビロンにいた、しかも**捕囚のユダヤ人**が**どうしてそんなに出世するのか、妬ましかった**と考えられます。また**彼は清廉潔白で、そのような人物が上に立つと煙たくて何もできない**からです。

何とかしてダニエルを失脚させようとして、総監や総督たちは王に近づいたのでした。

王を利用して、言いがかりを見出す。

6：6-9 注解

7 国の総監、長官および総督、参議および知事らは、相は
かって、王が一つのおきてを立て、一つの禁令を定められ
るよう求めることになりました。王よ、それはこうです。
すなわち今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事を
させ、もしあなたをおいて、神または人にこれをなす者が
あれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れるというの
です。



これはどういうことかということ、王に対する完全な服従です。一種の忠誠の誓いのようなもの。王はおそらく、彼らの忠誠の誓いの表れとでも受け取ったのかもしれませんが。**王だけを神のように崇めよう**というのですから。しかも、長期ではなく差し障りのないように、30日間という期限付きです。巧みな策略です。

王を利用して、言いがかりを見出す。

6：6-9 注解

8 **それで王よ、その禁令を定め、その文書に署名して、メデアとペルシャの変ることのない法律のごとく、これを変えることのできないようにしてください」。**

9 **そこでダリヨス王は、その禁令の文書に署名した。**



この禁令の意味は、いったん出されたら、王が王の指輪で押印した書は、王自身でさえも取り消しができないものです。それはエステル記にも出ています（エステル 1：19、8：8）。

「これをペルシャとメデアの法律の中に書きいれて変ることのないようにし、」

「王の名をもって書き、王の指輪をもって印を押した書はだれも取り消すことができない」と書かれています。

優れた霊 6:10-14

大臣や総督の嫉妬心、告発されるダニエル

10 **ダニエルは、その文書の署名されたことを知って家に帰り、二階のへやの、エルサレムに向かって窓の開かれた所で、以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した。**

11 そこでその人々は集まってきて、ダニエルがその神の前に祈り、かつ求めていることを見たので、

12 彼らは王の前にきて、王の禁令について奏上して言った、「王よ、あなたは禁令に署名して、今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事をさせ、もしあなたをおいて、神または人に、これをなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れると、定められたではありませんか」。



優れた霊 6:10-14

大臣や総督の嫉妬心、告発される

13 彼らは王の前に答えて言った、「王よ、ユダから引いてきた捕囚のひとりである、かのダニエルは、あなたをも、あなたの署名された禁令をも顧みず、一日に三度ずつ、祈をささげています」。

14 王はこの言葉を聞いて大いに憂え、ダニエルを救おうと心を用い、日の入るまで、彼を救い出すことに努めた。



.....

不運なことに、王はこの提案の裏にある動機を探りませんでした。それゆえ、陰謀を防ぐとされるこの法律自身がダニエルを害する陰謀であることに気づけなかったのです。



優れた霊 6:10-14 注解

大臣や総督の嫉妬心、告発されるダニエル

10 **ダニエルは、その文書の署名されたことを知って家に帰り、二階のへやの、エルサレムに向かって窓の開かれた所で、以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかかめて神の前に祈り、かつ感謝した。**

11 **そこでその人々は集まってきて、ダニエルがその神の前に祈り、かつ求めていることを見たので、**

これは、ソロモンの神殿ができた時からの、ユダヤ人の習慣です（列王記上8章）。ユダヤ人は早朝、真昼、夕方に祈るのが習慣だったようです。毎日三度、決まった時刻にダニエルは祈っていました。ダニエルは、預言者として有名でしたが、実は、祈りの人でした。ですから、あのような命令が出たとしてもいつもと変わらず祈っていました。11節にある通り、最初からダニエルを見張っていたのです。それから、当然、王に報告します。



優れた霊 6:10-12 注解

大臣や総督の嫉妬心、告発されるダニエル

12 彼らは王の前にきて、王の禁令について奏上して言った、
「王よ、あなたは禁令に署名して、今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事をさせ、もしあなたをおいて、神または人に、これをなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れると、定められたではありませんか」。

13 彼らは王の前に答えて言った、「王よ、ユダから引いてきた捕囚のひとりである、かのダニエルは、あなたをも、あなたの署名された禁令をも顧みず、一日に三度ずつ、祈をささげています」。

12節の通り、彼らは王を利用してダニエルを訴えます。13節は悪意に満ちた訴えです。

「ユダから引いてきた捕囚のひとりである、かのダニエル」、異国人でしかも奴隷ではありませんか、そのダニエルがあなたを無視し、あなたの禁令も無視しているとダニエルに不利になるような印象を与えます。・・・やっとならば王は気づきました。



優れた霊 6:10-12 注解

大臣や総督の嫉妬心、告発されるダニエル

14 王はこの言葉を聞いて大いに憂え、ダニエルを救おうと心を用い、日の入るまで、彼を救い出すことに努めた。

これはダニエルを失脚させるための計略だったのか、と気づいて王は何とかしようと思うのですが、いったん発布されてしまうともはや撤回はできません。・・・😱

獅子の洞窟 6：15－18

悩む王

15 時にその人々は、また王のもとに集まってきて、王に言った、「王よ、メデアとペルシャの法律によれば、王の立てた禁令、または、おきては変えることのできないものであることを、ご承知ください」。



16 そこで王は命令を下したので、ダニエルは引き出されて、ししの穴に投げ入れられた。王はダニエルに言った、「**どうか、あなたの常に仕える神が、あなたを救われるように**」。

17 そして一つの石を持ってきて、穴の口をふさいだので、王は自分の印と、大臣らの印をもって、これに封印した。これはダニエルの処置を変えることのないようにするためであった。

18 こうして王はその宮殿に帰ったが、その夜は食をとらず、また、そばめたちを召し寄せず、全く眠ることもしなかった。

獅子の洞窟 6：15—18 注解

悩む王

15 時にその人々は、また王のもとに集まってきて、王に言った、「王よ、メデアとペルシャの法律によれば、王の立てた禁令、または、おきては変えることのできないものであることを、ご承知ください」。

16 そこで王は命令を下したので、ダニエルは引き出されて、ししの穴に投げ入れられた。王はダニエルに言った、「**どうか、あなたの常に仕える神が、あなたを救われるように**」。



高官たちの態度はがわりと変わり、もう、開き直りです。いったん出したものは、それが実行されるまではどうしようもない。いったん出した以上は、王と言えどもなかったことにはできないのです。16節で、「**どうか、あなたの常に仕える神が、あなたを救われるように**」と王はダニエルに言うしかありませんでした。しかし異教の王にこのように言わせたということは、ダニエルがどんなにすばらしいあかしをしたかを表すのではないのでしょうか。

獅子の洞窟 6：15－18 注解

悩む王

17 そして一つの石を持ってきて、穴の口をふさいだので、王は自分の印と、大臣らの印をもって、これに封印した。これはダニエルの処置を変えることのないようにするためであった。

18 こうして王はその宮殿に帰ったが、その夜は食をとらず、また、そばめたちを召し寄せず、全く眠ることもしなかった。



この封印の方法は古代の習慣でした。穴があって、石を置いて、そこを横切るようにしばしばひもを渡して、端を粘土で固めました。そこに王や大臣の印を押します。こうして封印しました。この場合封印には**2重の意味**がありました。**一つはダニエルはもう逃れられない、という保証。もう一つはもしこの法律通りにして、それでもライオンに殺されない場合、他の方法で殺したりはしないという保証です。**夜、王は食べることも眠ることもできませんでした。

ダニエルの神の勝利① 6:19-23

神はダニエルを救われた

19 こうして王は朝まだき起きて、ししの穴へ急いで行ったが、

20 ダニエルのいる穴に近づいたとき、悲しげな声をあげて呼ばわり、ダニエルに言った、「生ける神のしもべダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか」。

21 ダニエルは王に言った、「王よ、どうか、とこしえに生きながらえられますように。

22 わたしの神はその使をおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした。これはわたしに罪のないことが、神の前に認められたからです。王よ、わたしはあなたの前にも、何も悪い事をしなかったのです」。

23 そこで王は大いに喜び、ダニエルを穴の中から出せと命じたので、ダニエルは穴の中から出されたが、その身になんの害をも受けていなかった。これは彼が自分の神を頼みとしていたからである。



ダニエルの神の勝利① 6:19-23 注解

神はダニエルを救われた

19 こうして王は朝まだき起きて、ししの穴へ急いで行ったが、

20 ダニエルのいる穴に近づいたとき、悲しげな声をあげて呼ばわり、ダニエルに言った、「生ける神のしもベダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか」。

21 ダニエルは王に言った、「王よ、どうか、とこしえに生きながらえますように。」

眠れぬ夜を過ごした早朝、王が急いで行ったということは、王がまだかすかな希望をもっていたということです。普通、王や貴族は威厳を保つためにゆっくり歩くものですが、この王はなりふりかまわず、急いで行ったのです。そして、ダニエルに呼びかけました。「生ける神のしもベダニエル」と王は呼びかけています。王はダニエルの神に祈ったかもしれませんが。ダニエルは落ち着いていて、普通の正式の尊敬の言葉で王の呼びかけに答えています。



ダニエルの神の勝利① 6:19-23 注解 神はダニエルを救われた



22 わたしの神はその使をおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした。これはわたしに罪のないことが、神の前に認められたからです。王よ、わたしはあなたの前にも、何も悪い事をしなかったのです」。

23 そこで王は大いに喜び、ダニエルを穴の中から出せと命じたので、ダニエルは穴の中から出されたが、その身になんの害をも受けていなかった。これは彼が自分の神を頼みとしていたからである。

わたしに対するいろんな非難は、当たりません。本当の神を礼拝したからといって決して王に対する謀反とか反逆の意図はございません、という22節。王は、非常に喜んで、すぐに穴から出し、体には外傷もなかったことが確認されました。確かにダニエルの言った通り、神が使いを送り、ししの口を閉ざされ、潔白が証明されたのです。

ダニエルの神の勝利② 6:24 陰謀者への罰



24 王はまた命令を下して、ダニエルをあしざまに訴えた人々を引いてこさせ、彼らをその妻子と共に、ししの穴に投げ入れさせた。彼らが穴の底に達しないうちに、ししは彼らにとびかかって、その骨までもかみ砕いた。

偽りの訴えをした人々を引き出して、その妻子と共に一獅子の穴に投げ入れられました。

これは、ペルシャの習慣で、一人の人が罪を犯せばその親族も処罰することになっていました。同害報復法と言われていますが、もし偽りの訴えをして罪に陥れようとした場合、同じ罰を自分自身が受ける、というものなので、同じ目にあうという意味です。しかも、穴の底に達したないうちに、とびかかって噛み砕いたのですから、決して獅子が満腹していたためでなく、明らかに特別に守られていたということなのです。

ダニエルの神の勝利② 6:26-28

王の賛美と命令

25 そこでダリヨス王は全世界に住む諸民、諸族、諸国語の者
みことのり
に詔を書きおくって言った、「どうか、あなたがたに平安が増すように。

26 わたしは命令を出す。わが国のすべての州の人は、皆ダニエルの神を、おののき恐れなければならない。彼は生ける神であって、とこしえに変わることなく、その国は滅びず、その主権は終りまで続く。

27 彼は救を施し、助けをなし、天においても、地においても、しるしと奇跡とをおこない、ダニエルを救って、ししの力をのがれさせたかたである」。

28 こうして、このダニエルはダリヨスの世と、ペルシャ人クロスの世において栄えた。



ダニエルの神の勝利② 6:26-28 注解

王の賛美と命令

25 そこでダリヨス王は全世界に住む諸民、諸族、諸国語の者に^{みことのり}詔を書きおくって言った、「どうか、あなたがたに平安が増すように。

26 わたしは命令を出す。わが国のすべての州の人は、皆ダニエルの神を、おののき恐れなければならない。彼は生ける神であって、とこしえに変わることなく、その国は滅びず、その主権は終りまで続く。

27 彼は救を施し、助けをなし、天においても、地においても、しるしと奇跡とをおこない、ダニエルを救って、ししの力をのがれさせたかたである」。

28 こうして、このダニエルはダリヨスの世と、ペルシャ人クロスの世において栄えた。

王は全地に住む民に、勅令を送り、宇宙万物においてしるしと奇跡を行う方であり、彼はいける神、国は滅びず、主権は終わりまで続くと賛美と誉と栄光を帰し、ダニエルの神を恐れ敬うように命令しました。28節では、ダリヨスの世、クロスの世は栄えたと証しています。



質問

1. なぜ、役人たちは、ダニエルに嫉妬したのか。
2. 嫉妬はどこから来ますか。歴史上、最初に嫉妬したのは誰か。
3. なぜ神は、ダニエルを獅子の穴に入れられることを許されたのか。
4. ダニエルの話から、私たちは何を学びますか。

答え

1. なぜ、役人たちは、ダニエルに嫉妬したのか。6:1~4

- ・ 6:2 ダレイオスは、王国に**百二十人の**^{そうとく}**総督**を置いて全国を治めさせることにし、
- ・ 6:3 また、王に損失がないようにするため、これらの**総督から報告を受ける大臣を三人、その上に置いた。ダニエルはそのひとりであった。**
- ・ 6:4 ダニエルには^{すぐれた}**優れた霊が宿っていたので、他の大臣や総督のすべてに傑出し**^{けっしゅつ}**ていた。王は彼に王国全体を治めさせようとした。**

ヒント：ダニエルの立場は何か。何人か。神は？

答え

2. 嫉妬はどこから来ますか。歴史上、最初に嫉妬したのは誰か。

ヒント：天で反抗したのは、誰ですか。

天で反逆したサタンです。

3. なぜ神は、ダニエルを獅子の穴に入れられることを許されたのか。

「神はダニエルの敵が、彼をししの穴に投げ入れることを阻止されなかった。神は悪天使と悪人たちが、ここで彼らの目的を達するのをお許しになった。しかしそれは、**神のしもべの救出をさらに著しいものにし、真理と義の敵の敗北を、さらに完璧なものにするためであった。**「**まことに人の怒りはあなたをほめたたえる**」と詩篇記者はあかしした（詩篇76：10）。御都合主義ではなくて、正義を行うことを選んだこの1人の人の勇気によって、サタンは敗北し、神のみ名は高められ、崇められるのであった」 国と指導者、589ページ。

「諸国の歴史と来たるべきでき事についての啓示において、**神のみこころがどのように達成されるかを研究することは、見えるものと見えないものの真の価値を評価し、人生の真の目的が何であるかを学ぶ助けとなる。**こうして、現世のでき事を永遠の光に照らしてみる時に、われわれはダニエルと彼の仲間たちのように、**真実で気高く、永続するもののために生きる**ことであろう。そしてわれわれは、われわれの主、**救い主の永遠に続く祝福された王国の原則を現世において学び、彼がおいでになる時には、彼とともにその国に入って、それを自分のものとする準備が整うのである**」 （国と指導者、591p）。

アーメン！！

ダニエル6章

完。